令和7年度 江戸川区立鹿骨松本小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子		目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の育成を果たす学校 ○「よく考える子」「思いやりのある子」「たくましい子」 ○安心できる学校づくりに邁進し、一人一人に応じた指導ができる教師
前年度までの本校の現状	成果	○基礎・基本的な定着を目指した指導を、年間を通して実施したことで、学習に前向きに取り組む児童が増えた。 ○様々な取組を通して、児童が落ち着いて生活できる環境を整えることができた。	課題	○児童の学習の基礎・基本の更なる定着や主体的・対話的で深い学びとなる授業スタイルの確立などが早急の課題である。家庭との連携も含めた学力の向上について考えていきたい。 ○開校記念式典に向け、地域との連携をさらに深めていきたい。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・週3回以上の全校一斉朝学習の実施及び東京ベーシックドリル診断結果に基づいた個人カルテの作成 ・年3回の「江戸川っ子study week」による家庭学習及びミライシード活用の推進	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が「学力を高めようとしている」と回答 ・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が「すすんで学習に取り組む」と回答	70%		B	○全国学力・学習状況調査において、CD層の割合が昨年度並みであった。さらに、割合を下げるべく、結果を分析し、手立てを講じていく。	B	○分析と結果の両輪が必要である。朝学習及び個人カルテの活用方法を確立していくことが肝要である。					
	○読書科の更なる充実	・昼読書の設定及び学校図書館の環境整備	・週3回以上の昼読書の実施及び夏休み期間中の集中環境整備	70%		B	○夏休み期間中に学校図書館の電算化を実施した。 ○1学期に中央図書館と連携し、調べる学習コンクールに向けた出前授業を実施した。	B	○読書に興味をもつよう読書ビンゴ、または昼読書や読み聞かせの取組を充実させることで本への興味や関心がさらに深まると思う。					
	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・「江戸川っ子縄跳びチャレンジ」の推進 ・運動量が確保された体育授業の実施 ・年間を通して、体育の時間で主運動につながる補助運動の実施	・各学期2週間の実施 ・児童へのアンケート結果で、90%以上の児童が「体育や外遊びなど、体を動かすことが好き」と回答 ・体力調査の項目において全項目の60%以上で区平均を上回る	65%	65%	70%	B	○1学期に2週間、全校が外に出て「短縄跳び」に取り組んだ。2・3学期も同様の取組を行い、体力の向上を図っていく。 ○学習カードや1単位時間の授業の工夫を行い、児童の運動時間確保に努めた。 ○体力調査において、67%の項目で全国及び東京都の平均を上回ることができた。今後も補助運動を継続し、更なる体力向上を目指していく。	B	○縄跳びは体づくりにはよい運動なので、週に1回、全校で音楽に合わせて跳ぶ取組を行ってもよい。 ○体力向上のためにも日頃から体を動かすことの大切さを知り、いろいろな運動に挑戦してほしい。 ○国や都の平均を上回る成果が得られたことは、短縄や持久走等の取組をしているからだと思う。今後も体を動かす機会の担保をお願いしたい。				
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・SCやSSW、巡回指導、通級指導、特別支援教室専門員との連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	85%		A	○SCやSSWと常に連携を取ることで、支援が必要な児童や家庭の背景が分かり、その後の指導につなげることができた。 ○特別支援担当教員と週1回以上打合せを行うことで、同じ方針で指導にあられた。	A	○校内掲示や案内表示など授業だけではない環境整備ができると良い。 ○情報共有は重要である。					
	○エンカレッジルームの活用促進	・不登校児童や別室指導の児童を含む全児童の居場所づくり	・児童へのアンケート結果で、90%以上の児童が「学校に居場所がある」と回答	80%		B	○不登校児童や別室指導の児童全てがいずれかの関係機関とつながることができた。今後も関係を切らずことなく、全児童の居場所を作っていく。	B	○居場所づくりは大切な視点である。 ○不登校児童の対応は難しいが、いつでも心がつながっている取組はぜひ続けてほしい。					
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施	70%		B	○2学期より副籍（直接）交流を行っていく。特別支援学校担当教員と連携を密にし、実りある交流を実施していきたい。	B	○交流を通して、互いを思いやる心や助け合う気持ちを学んでほしい。 ○1学期から実施できなかった理由を知りたい。どの学校も実施が遅い。					
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・異学年交流や地域資源を生かした活動などの充実	・児童へのアンケート結果で、90%以上の児童が「学校が楽しい」と回答	70%		B	○なかよし班活動を活用した異学年交流を月に2回以上は実施できている。今後は学校応援団等と連携し、地域資源を生かした、特色ある教育活動の充実を図っていく。	B	○今後、学校応援団等との連携を図ってほしい。					
	○L-Gateの活用	・問題行動の未然防止、早期発見・早期対応	・全学級、毎朝のL-Gate及び教職員間での情報共有を実施し、いじめ解消率100%	75%		B	○6月より、L-Gateを活用し、毎朝児童の「心の健康観察」が実施できている。情報のアンテナを高く保ち、問題行動の芽を確実に摘み取っていききたい。	B	○統合により全ての児童が環境変化にさらされたと思うが、特段問題がないように感じ、安堵している。					
	○教育相談の強化	・SC、SSW他関係機関との連携強化	・不登校児童とのSC、SSW他関係機関との連携率100%	85%		A	○不登校児童と関係機関との連携は100%である。担当者と密に情報を共有し、不登校児童が少しずつでも、確実に次のステップへ歩めるよう支援していく。	A	○不登校児童にはじっくり関わり、時間をかけて話を聞き、その子にあった対応が必要。 ○学習の保障をお願いしたい。					

学校の実現 地域社会に 開かれた	○学校ホームページの充実	・学校ホームページの毎日の更新	・学校関係者評価、保護者アンケートの学校の情報発信について、肯定的に回答する割合が90%以上	65%		C	○週に2・3回程度、学校ホームページの更新ができています。今後は、学年ごとの取組も積極的に発信し、充実を図ってまいります。	B	○学校や教育活動の内容が、ホームページの写真から伝わってくる。 ○ホームページ更新より、授業優先が良い。						
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・年3回の学校関係者評価の開催	・事前に学校関係者評価の内容を学校評議員に提示し、課題や取組を明確にして学校参観を実施し、評価につなげる。	75%		B	○学校評議員に取組目標と取組内容を年度当初に示すことができました。江戸川区の教育施策を受け、重点項目も設定することができました。	B	○統合してからの子ども達の様子を観察する良い機会である。						
	○学校公開の実施・充実	・教育活動の積極的な公開	・各学期1回以上の公開日の設定及び参観者アンケートの実施	75%		B	○各学期1回以上の公開日を設定することができた。また、オンラインアンケートを実施し、出された意見については、全教職員で共有することができた。	B	○子ども達の様子を見ることのできる学校公開は、とても貴重である。						
教育の展開 特色ある	○愛校心を醸成する教育活動	・全児童によるヤギ飼育及び地域の花園と連携した活動	・児童へのアンケート結果で、90%以上の児童が「学校が好き・地域が好き」と回答	70%		B	○なかよし班や委員会活動を中心にヤギの飼育に取り組んでいる。また、地域の花園と連携した活動も少しずつ始まっている。	B	○地域の文化や伝統を大事にしていく中で、花の寄せ植え、小松菜、ヤギ飼育などの教育活動はとても良いことだと思う。						
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・全教員年3回の授業観察・授業公開及び年間を通じたOJT研修の実施	75%		B	○全教職員対象に授業観察・授業公開を実施した。また、OJT研修も月1回以上実施することができた。	B	○様々な対応がある中で、研修を実施するのも大変かと思うが、ぜひ継続してほしい。						
	○働き方改革の推進	・毎月の定時退勤日の設定	・1か月の残業時間が60時間を超える教職員が0人	70%		B	○7・8月は残業時間が60時間を超える教職員は0人であった。今後、毎月の定時退勤日の設定に加え、週1回以上のマイ定時退勤日を設け、働き方改革の更なる推進を図っていく。	B	○働き方改革をこれからも推進し、くれぐれも身体には気を付けてほしい。						